

令和2年度社会福祉振興助成事業

居場所っていいよね

～野外遊び場と室内居場所で自己決定と自己有用感を育てる若者支援～



目次

はじめに … 1

2020年の子どもたち・若者の現状 … 2

居場所の一年 … 4

柱立1: 野外の遊び場・若者居場所事業 … 6

柱立2: 室内の居場所・ユーススペース事業 … 8

柱立3: 若者の社会体験プログラム事業 … 10

柱立4: スタッフ養成の研修や視察の開催

柱立5: 若者支援に関わる団体との情報交換やネットワークづくり… 11

柱立6: 報告書の作成・報告会の開催

2020年度事業実施概要まとめ・次年度に向けて … 12

居場所っていいよね

はじめに

「開いてた、よかった」とやってくる若者たちがいます。

「今日やってる？」とききにくる若者たちがいます。

なかなか来られないけど、来たいなって思ってたよ、

どうしてるかなって思ってたよ、と

若者たちにとってここはふとした時に思い出す、

思い出すことでちょっと心が温くなるそういう場所です。

居場所っていいよね。

いろんなことがあるけど、私たちはここで待っています。

なかなか会えなくても、

どうしてるかなと私たちも時々思い出しながら

あなたにまた会えるのを楽しみに待っています。



2020年の子ども達・若者の現状

若者支援事業を一年実施して見えてきた課題の1つ目は、社会的体験や人との信頼関係の不足でした。家庭の中で当たり前に行ってきた風習や季節の行事、遠くへのお出かけなどは戸惑うこともありましたが、居場所への参加の回を重ねスタッフの信頼も積まれてくると、次第に笑顔が見られるようになり、自分の状況や将来のことなども少しずつ話してくれるようになりました。一人の人として大事にされると言う当たり前の権利を大事にしました。

2つ目に見えてきた課題は、スタッフの不登校や引きこもりの若者への理解でもありました。

関わる大人も「子どもや若者はこうあるべき」「やってあたり前」の固定概念を外すこと、あたり前を求めないこと、一人一人との信頼関係を築き、参加者の小さな変化を待つことが大切であるとわかりました。

そして3つ目には義務教育を修了してからの居場所は少なく、無職やフリーターの状態で学校を離れた若者に対しては支援の手が届いておらず、継続した居場所の確保が必要であるということです。

社会に出ても再び帰ることができる場所があることは、何より若者の自立を支えます。

若者支援事業2年目では、この3つの課題を解消するように事業を進めましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、開催内容については検討を重ね、居場所の確保をまず大きな目標とかかげ、若ものともアイデアを出し合い企画実施してきました。

「遊びは心の栄養」

～感染症対策と居場所の役割～

居場所は本当に辛いときの心の拠り所。
気持ちをそのまま出していい場、
気持ちを話したくないという気持ちまで含めて
受け止めてくれる場がある、
あそこに行けばわかってくれる人がいるという
安心を求めて若者たちは居場所にやってきます。
どうしても誰かに会いたい時、
話がしたい時に思い出して欲しい。
居場所は変わらずいつもそこにある、
自分を待っている人がいる、
それが若者の安心につながります。
開催日ではない日にも人が来た形跡があり、
物が壊れていたこともありました。
ストレスが多い時にこそ、気持ちを発散し、
気持ちのやり取りができる場が必要です。
「家にいるのは限界だ」
という若者がひとしきり遊んで、
また来るよと少しすっきりした顔で
帰って行ったこともありました。
遊びは心の栄養です。
必要な感染症への対策をしたうえで、
居場所としての役割を続けてきました。



【コロナ禍での野外の遊び場開催について】
いつもどんぐりの森を応援して下さいありがとうございます。
どんぐりの森の開催についてのお知らせです。
感染症対策のため、どんぐりの森は5/6まで
・13:00～16:00までの短縮開催(土曜日・祝日は休み)
・条件付きの一部開催
を行います。
緊急事態宣言が発令される事態となり、
開催については非常に悩ましく、スタッフみんなで検討しました。
いろいろな意見があります。
そんな中ではありますが、本当に辛いときの心の拠り所、
居場所としての役割は続けたいと考えました。
普段のプレーパークとは違い、
・遊具で遊ぶ ・料理をする ・たき火をするはできません。
おうちで過ごせる方はおうちで過ごしてください。
でも、どうしても誰かに会いたいとき、話がしたいときは
どんぐりの森を思い出してください。
開催時間中はスタッフがどんぐりの森にいます。
参加する場合には十分な健康チェック、
3つの密(密閉・密集・密接)を避けるといった
自己管理をお願いします。
感染症予防のため、長時間の滞在はご遠慮いただければと思います。
どんぐりの森で少しでもほっとする時間をもって、
続く感染症対策の日々を乗り越えられたらと思います。
(2020/4/9Facebookページより)



(資料)

新型コロナウイルスによる活動自粛中の《子どもの声》アンケート

〈集計概要〉

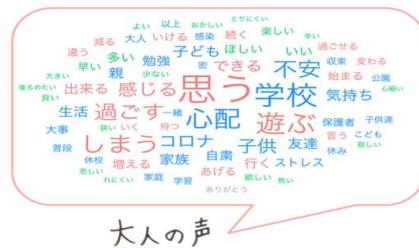
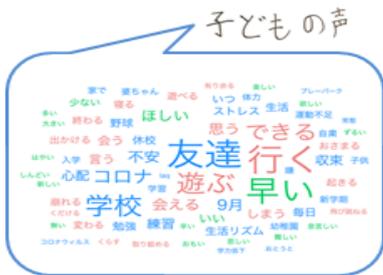
- ・目的 :新型コロナウイルス感染拡大防止、予防のために、休校や外出自粛が続く状況の中で子どもたちはどこでどのように過ごしているのか、どのような気持ちでいるのか、実際の子どもたちの声を聞き取る無記名の個人情報を含まないWEBアンケートを行い、子ども達の生活状況や気持ちをまとめ地域の大人たちが子どもたちに必要な支援を考え行動に繋げるためにアンケートを実施。
- ・対象:乳幼児～高校生(20歳以上の保護者の方がお子さんの声を聞き取り入力)
- ・回答期間:2020年4月28日～2020年5月6日
- ・実施方法:千葉県冒険遊び場のネットワークを通じて主に千葉県内の子どもの保護者に案内し、回答はWEBアンケートにて受付
- ・回答数 :389件
- ・実施団体:一般社団法人千葉県冒険遊び場ネットワーク

〈調査概要〉

- ・千葉県市、成田市、船橋市、市川市、四街道市、八千代市の他、南房総市など県内全域から回答
- ・自粛中、自宅で過ごしている子は95%を超え、兄弟や保護者と過ごす一方、昼間一人で過ごしている子も9%いました。
- ・日中の過ごし方は宿題や課題をする、テレビやDVDを観る、家の中で好きなことをやる子が 多く、調理や工作をしながら過ごす子も 30%いて子どもなりに工夫して過ごしていることわかりました。
- ・「嫌だな」と感じていることは学校に行けないことよりも、友達と会えないことや外で遊びにくいことだと答えている子が80%います。一方、自分のペースで過ごせることや好きなことができる、家族と一緒に居られることを「良かった」と感じている子も50%以上 いました。

●自由記載単語頻度●

自由記載欄のキーワードとしては学校、次に友達、不安、コロナ、勉強、ストレス、遊ぶ、休校、受験 準備に多く、保護者の不安な声や、勉強の遅れや友達との交流の少なさを心配しています。



心の状態としては、不安な気持ちはなくいつも通り過ごせている子が40%いる一方、20%の子はイライラしがちで怒りっぽいなども感じ、2項目以上の不安項目選択した子は全体の25%いました。

不安な気持ちはあまりない
いつもと変わらないで生活できている
イライラしがちで怒りっぽい
きんちょうや不安を感じる
いろいろなこと心西じしきる

自粛中でも子どもは1日1日育っていること、自粛中一人でいる子が少なからずいること、情報社会の中で子ども達は大人の不安に巻き込まれていること、野外であるメリットを生かして、子どもの育ちの場所を確保することは自粛中でも必須であること、それが大人の役割であることを忘れないでいきたい。

バイトでなかなか上手いかわなくて
苦しかった時とかにぶらっとにいけば、
その時だけでも嫌なこと忘れられたり、
話を聞いてくれる大人たちがいる。
心の支えの1つがぶらっと。
あと、新しい趣味との出会いが
あった所。

(22才/M.S)



居場所の一年

2020年度は、例年とは違うことがたくさんあり、大人も子どもも若者も、誰もが戸惑う中で始まりました。いつもならできたはずのこと、やりたかったのにできなかったこと…制限された生活にストレスや不安を感じることもありました。

感染症対策とともにあった一年ではありましたが、そんな中でも子ども達・若者たちは様々なことを感じ、成長していく姿を見せてくれました。

若者たちの成長に遊びは欠かせません。若者たちが安心して育つためには居場所が必要です。

2年目となり、若者たちが「自分の居場所」と認識し始めたことで、それぞれの距離感を確かめながら、若者たちは少しずつ自分なりのつながりを作り始めています。

若者たちの様子(春)

休校期間や部活動が思うようにできない間、普段は遊びに来ることができない中高生の参加も多かった。

ストレスが多い中、自分のペースで過ごせる居場所を求める若者にとって貴重な場所となっていた。



若者たちの様子(夏)

いつもよりずっと短かった夏休み。

感染症が一時落ち着いたこともあり、

少しずつ日常を取り戻していました。

人と会える喜び、楽しさを再確認できた。



第3の居場所で

自宅と学校や職場以外の、地域の大人のいる所に参加して交流する若者は、とても行動力があるなど感心します。

出かけるのが面倒だったり、インターネットでの娯楽がたくさんある中でわざわざ出向いていくのだから、そこは、どんな人でも認めてもらえる受け入れてもらえる安心できる場所でありたいと思っています。

人に会うこと、一緒に過ごすことを望んでやってくる子たちにうまく応じられたかは毎回自問してしまっていますが、実際に近くに居場所があるというインターネットでは得られない安心感を提供できているのではないかと思います。

そして人と会い交流することは楽しいことだと少しでも感じてもらいたいと思っています。

誰かにちゃんと受け止めてもらえたという経験、社会の中に頼れる場所があるということを知ったことは、これからの人生で困難にぶつかっても自分をあきらめないことになるのではないかと思います。

活動の中ではなるべく若者の話を聞くという姿勢でいたいのですが、話を聞いていると時に若者が危なっかしいと感じることが多々あります。

自分も若気の至りはたくさんあったし、若者には人生において未経験のことが多いので当然のことなのですが、雑談の中できっかけがあれば自分が若いころの失敗談とか危険だったことなど話していきたいと思いました。

そして、そんなこと聞いたことあるな、人生いろいろあるということを知るという経験も

後に生きてくるのではないかと思います。

(スタッフ 今川都也子)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
野外の居場所	← プレーパーク通常開催 → ← ベーゴマ大会 →											
屋内の居場所	← 中高生の居場所ぶらっと →											
若者企画	← ホームページ作成 →	花火 ベーゴマチャンピオンシップ 田植え						モリンピック 稲刈り	脱穀 → 精米	誕生日企画		
その他										若者支援情報交換会 ← 報告書作成 →		

若者たちの様子(秋)

居場所にやってくる若者たちが定着し始めた。
それぞれがそれぞれのペースで人と関わる。
ここに来れば誰かがいる、誰かに会える。
新しい生活様式にも慣れてきた。



若者たちの様子(冬)

二度目の緊急事態宣言を受け、手作りの食事の提供を停止しても、若者たちはやってくる。
居場所が開いている、そのことが安心につながる。
できる形で開き続けることが大切だと思った。



土曜日の室内の居場所については
プレーパークからの流れてくる子が多くて、
プレーパークから繋げてもらえるって
一度で二度おいしいなど。
プレーパークだとなかなか人も多くて
しゃべられないときに室内の居場所では
少ない人数だからと室内の居場所です
待ち合わせして集合している男子たち。思春期真っただ中。
何となく家に居づらい人たちがここで集まって
ワイワイ楽しそうにやっているのが面白いよね。
兄弟たちが来ていて行きたいと思っていた弟。
自分もこられて嬉しそう。
大人数の姉弟はいつも家では
他の兄弟の世話をしているそう。とっても絆が深い。
お兄ちゃんおねえちゃんが下の子の面倒を見るというのが
自然としていて素敵。
今日は大きい子たちだけだから少しはらくになれたかな。
でも結局きても弟の世話をしっかりやっている。
そとでご飯を食べることもよくあった。
みんな地面に座って。
なんか普段できないからなのか
ちょっと特別感もあっていい雰囲気でした。

(プレイワーカー 中島良介)

新型コロナウイルス感染症の影響により、
拡大したニーズ・課題への対応
子育て世代の孤立、子どもや若者の不安の高まりが
実施したコロナ禍中の子どもアンケート調査からも
見えてきました。
外出できないという物理的な拘束、
自由が奪われる不安、
話を聞いて欲しくても一時閉所中の児童施設は
孤立感を高めました。
そんな中、時間は短縮しても開催する
当事業の若者支援の安心感は、
若者の心の支えになったようです。
対応として、可能な限り野外と室内の居場所を開催し、
オンラインも活用しました。

野外の遊び場、若者居場所事業

月に2回土曜日にプレーパークどんぐりの森で野外の遊び場、若者の居場所を開催してきました。

自然の中、野外という環境は屋内とは違い、いつでも変化し続けています。

雨が降ったり、晴れたり、寒かったり、暑かったり、風も吹きます。

思いがけないことが起こったり、思ったようにならないこともたくさんあります。

そうした環境の中で若者たちは人に出会い、人とともに過ごし、いろいろなことを経験します。

上手くいったときも、そうでないときも、感じたことをそこにいる誰かと共有します。

野外の遊び場は、様々な体験を通して若者たちが人と関わる面白さを知る、若者たちと一緒に作る居場所です。

そこは気軽に困りごとを持ち込める社会的居場所にもなっていました。



最後に会ったのは彼女が小学生だった頃。
「この合言葉だけは忘れなかったんだよね」と
高校生になった彼女が小学生だった頃に
ふたりで交わした冗談を、数年ぶりに会った時
お互いに忘れていなかったことが嬉しくて
たくさん一緒に笑いました。
一緒に過ごした時間の中のなんでもないことを、
ふとした時に思い出して心がちょっと温かくなる。
数年ぶりに会った時に「そんなことあったね」と
笑い合える思い出があるってとても素敵なことです。
今日、遊び場で過ごしたなにげない時間も、
誰かにとってそういう時間になるとしたら
とても光栄です。
なかなか会えなくても、いつも応援しています。

(プレイワーカー 関口笑子)





居場所出会った若者たちへ～若者たちと一緒に過ごしてきた大人たちからのメッセージ～

行くといつもいた常連の子どもたちが高学年になり、中学生になり、高校生へ。

背が伸びたね!声変わった?合格おめでとう!バイト頑張ってる?って会うたびに着実に変化している姿に驚きと嬉しさを感じる半面、いつも森で会っていた事が当たり前でなくなる寂しさを感じている。

我が子も幼稚園生から小学生、これから中学生へと

なり、森へ行く頻度も減っていくんだろうと思う。けれど小さいうちは無限の遊び場として、小学生の時は学校でのモヤモヤからの息抜きできる開放の場として、さらに中学生、高校生と大きくなってからは居場所としてとても大切な場所。

異年齢で交流し続け色々な大人とも関わって過ごし、「仲間」と思える大切な人たちが居る、そういう環境があることがとてもありがたい。

(40代/A.K)

うちの子に「森で会うよっと年上の人達ってどんな存在?」と聞いたら「ともだち!」という答えが返ってきました。

学校でも年の違う子と接しますが、どうしても先輩後輩の上下関係が存在します。

「ただ歳が違うだけのともだち」

とても素敵だと思います。

ともだちといえは、おじさんおばさんになった今も付き合いがある人は、小学校高学年～高校生くらいに仲良くなった人が多いです。

今、そしてこれからそういう時期にある君たちには、たくさん泣いたり笑ったりして一生付き合えるようなともだちが出来るといいなと思っています。

(40代/M.K)

声変わりしたりバイトしてるとか聞くともうステージが違うと思っちゃうよ。

時の流れの速さが違うよね。大人からすればあつという間の月日も彼らにとっては変化の連続の日々で、ベーゴマに熱中した頃なんて昔のことなんだろうな。懐かしくて羨ましいです。そんな彼らの顔をたまにでも森で見られるのは嬉しいと思ってます。

(40代/H.T)



僕の初めての仕事となったプレーパークの立ち上げは、プレーパークって言葉すら知らないところからのスタートでした。そんな中、四街道プレーパークどんぐりの森の皆さんにお世話になり、ただ自由な遊びができるテーマパークではない、プレーパークがもつ居場所としての役割を肌で感じ、学ばせてもらいました。「ここに居る人は、子どもから大人まで、誰も無理していない。」

と感じたことを印象強く覚えています。

そんな居場所にする事が何よりも重要なんだと思っています。

そんな感覚を持ち帰り、習志野のまちの仲間とプレーパークの立ち上げを行いました。

「自由とは何か?どんな状態なのか?どんな環境か?

子どもを超えてその場にいる人たちの居場所となるには、どうしたらいいのか?

仲間たちと必死に考え、自由や子どもの遊びに真正面に向き合い、

毎回のプレーパークに取り組んでいます。

子どもにとって、本当に自由や遊びが少ないと感じる現代。

「誰もが自分らしくいられる場へ」

その実現までは、まだまだ長い道のり

毎回見られる子どもたちの笑顔や真剣な表情に勇気をもらい、

プレーパークで出会った仲間とより良い居場所をつくって行こうと思います。

(新社会人 フェューチャーセンターならしの/えいちゃん)



室内の居場所・ユーススペース事業

定期的な室内での若者の居場所室内居場所事業は32回実施、述べ158人(1月20日現在)が参加。
 昨年に引き続き参加者は準備から参加し、買い物や居場所での相談から、悩みの自己解決に結びつくこともありました。
 事業1年目の報告書より大学生や不登校親子の見学もありました。
 みんなで食事づくり、会話の中で、悩みの相談、進学のための学習支援を行い、その中でコミュニケーションスキルを身につけていることを実感しました。一人一人が人として大事にされる。
 専門性より関係性を大事に、参加者同士のやりとりも回を重ねるごとに、深まり、温かなものになりました。

中高生の居場所ぷらっとは
 若者たちにとって
 居心地のいい場所、
 安心できる環境の中で
 自分のペースで人と出会い
 交流できる場を目指しています。
 勉強、遊び、
 おしゃべり、相談を通して
 コミュニケーションをする場です。



中高生のフリースペース ぷらっと

学校でも家庭でもない、地域の憩いの場
 自分の時間をゆっくり過ごせる
 ひとりでも・友達と一緒にでも
 開催日：毎月第1土曜日、毎週金曜日
 (第1土曜日直前の金曜日は休み)
 場所：和良比やすらぎの家
 (四街道市和良比691 どんぐりの森の森前)
 対象：中高生・若者
 参加費無料・予約不要



いつ来ていつ帰ってもOK。
 学校が苦手な子も
 気軽に行ける場です。
 Wi-Fi使えます。漫画あります。
 音楽を楽しめます。
 話したい時には話せます。
 アナログなゲームができます。
 勉強するスペースあります。
 自分で作って食べられます。
 のんびりゆっくりできます。
 みんな自由に過ごしています。

主催 NPO法人四街道プレーパークどんぐりの森

TEL 090-6197-6735

E-mail donchan@dongurinomori.net

ホームページ <https://homes.dongurinomori.net>

Twitter@yasuraginoie05



※駐車場あります。保護者の見学もOK

四街道プレーパークどんぐりの森とは?
 子ども達の体験不足による自己肯定感の低さの解消や、地域の居場所の確保のために
 2001年より野外の子どものための場「冒険遊び場プレーパーク」の開催を続けてきました。
 若者たちの自立や社会参加のための準備の必要性を感じ出陣を招く若者を選び場を受け入れ
 支援しています。ぷらっとにはプレーパークのスタッフとして活動してきた大人が継続しています。

毎月第1・第3土曜日10時～(終了時間は季節によって異なります。)
 場所：どんぐりの森(四街道市和良比690皇座霊神社の前の森)

野外の若者の居場所としてプレーパークを開催しています。
 プレーパークは赤ちゃんと80代以上の大人まで
 様々な年代の人が集まるみんなの居場所です。
 それぞれ違った価値観をもついろいろな人たちが
 みんな思い思いに過ごしています。
 プレーパークは自分の責任で自由に遊ぶ、をモットーに
 自分のやってみたいことに挑戦できる野外の遊び場です。
 「やりたい」と思わないことはやらない、
 そういう自由もあります。
 プレーパークは遊びを通して
 自分らしく過ごす人を応援する場です。



若者企画を募集しています。

やってみたい、行ってみたいと思っているけど、
 なかなか実行するきっかけがなかったこと、
 一人でやるにはちょっと難しいなと思っていたこと
 一緒にやってみませんか?

【2019年度実施企画】

- ①米作り
- ②四街道こどもまちづくりプロジェクト出店
- ③ペーゴマ大会
- ④ペーゴマ遠征 浅草はなやしき
- ⑤ペーゴマ遠征 馬籠のむら
- ⑥ペーゴマ遠征 成田公津の杜プレーパーク

2020年度企画を募集中です。

2020年度開催カレンダー

7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

開催日、開催時間に変更となることがあります。最新情報はTwitter等でご確認ください。

中高生のフリースペース「ぷらっと」@やすらぎの家
 @yasuraginoie05

<https://twitter.com/yasuraginoie05>



「中高生の居場所ぷらっと」若者支援事業案内

外での七輪。

今年はこれをやり切った。

最初に火をつけるところからすでに楽しくて、

「つかね～な」

「ちょっと貸してみなやってみようよ」

「早くつけてよ」

なんて話のネタにもなったり。

そこで同じことを同じ空間でやっているだけでも

なんだか心が通じるよね。

火っていうのは不思議なもので安心するんだよね。

言葉はなくても、ただただ火を見つめて、

火をいじって、ちょっとお菓子焼いてみたり、

肉焼いてつまんでみたりして…

不思議と火の周りには人が集まる。

火の周りでも結局スマホさわって、話をしない子もいるけれど、

なぜかここにやってくる。

人を引き寄せる何かがあるのかも。まあ人恋しいんだろうな。

慣れない子はやっぱり扉を開けて中に入るのはなかなかハードルも高いので

外でちょっと話をしたりぼーっとしたりして安心してから中に入っていきこともある。

外の七輪にも室内にもどちらでも子どもたち自分で選べる。

ちょっと静かな外、人の多いところが苦手な人には外の場所はとても居心地がいい。

寒くなったら中に入るなんてのも自分で決められる素敵な空間。



ここに来るのは
ごはんがおいしいから。
おいしいごはんがあるよ、
と友達を誘ってる。
家はヒマ。
家にいると
「勉強しろ」しか言われなくて
めんどくさい。
自転車で20分かかるけど
のんびりできていい。

(中学2年/T.0)

久しく会っていない子が突然現れて

大人を驚かせる。

そんな嬉しい出来事が今年も起きました。

とりとめもない話の中で成長を感じ、

心の葛藤を覗かせることもありました。

関わる私は、

会えた喜びと感動でいっぱいになり、

場所や信頼出来る人が求められていることを
実感しました。

思春期に差し掛かり素直に自分の気持ちを
伝えることが難しくなっても、

自分の話を聴いてほしい!

親でも、教師でもない

大人との関係が築ける居場所は

貴重な存在だと思えます。

(プレイワーカー 小林晶子)



若者の社会体験プログラム事業

2020年度コロナ禍でフリースペースが開けられない時期に、若者企画としてオンラインフリースペースホームページを開設しました。2019年度フリースペースに参加していた高校を卒業した若者と、中学生、高校生がメンバーとなり、試行錯誤してホームページ(オンラインフリースペースぷらっと)を作成しました。自分のページを編集して希望者は公開設定し、自粛中の思いや、企画を共有しました。

画面への表示がされないなどのトラブルも専門家に相談しながら、一つずつ解決。動画作成や作成した動画を投稿するYouTubeチャンネルも登録し、投稿からのコメントのやりとりもしました。

オンラインの活用により、緊急時にも繋がれる安心感、オンラインでも会える喜びを感じられます。

若者企画①ホームページ制作

コロナ禍で集まらない中でも、自分の言いたいことを発信できる場を自分たちの力で作ろうと、若者たちと一緒にホームページを作成しました。難しいこともありましたが、ひとつひとつクリアしながら取り組み、公開することができました。



若者企画②ベーゴマ&花火

例年実施していた時期にはできませんでした。小規模ながら大会を続け、準備してチャンピオンシップを開催しました。打ち上げがわりに行った花火にはベーゴマをしない人もたくさん参加しました。



若者企画③田んぼ

今年度も実施した田んぼは感染症の関係で田植えの時期が遅れたりしましたが、田植えを楽しみ、稲刈り後のわらで正月飾りをつくったり、モリンピックに活かしたり、お米を作るだけでない楽しみがありました。



若者企画④お祝い事

大きなイベントはできない一年ではありましたが、誰かの誕生日を祝うなど、身の回りの小さなイベントを大切にする楽しさ、そうした経験の大切さを実感するいい機会になりました。



若者企画④モリンピック

中止になってしまった森まつり、そしてオリンピックとからめてやってみたいことを実現した「モリンピック」を開催しました。

靴飛ばし大会やわらしべ長者選手権といった競技の他に、音楽を楽しむなど、様々なことを実現することで、制限の多い時でも楽しみを見つけることの大切さを実感することができました。



柱立て4 スタッフ養成の研修や視察の開催

研修

- *ぴっかりカフェオンラインボランティア養成講座参加
- *傾聴研修自主開催
- *食の安全講習参加
- *NPO法人ネモネット生きているだけでOKな居場所 講座参加

野外での自主的・自発的な遊び場、室内のフリースペースに関心を持った高校生や大学生の実習生が参加しました。

子どもたちが自分らしく過ごせる場、自ら考え遊べる場に関心を持ち、自らも遊び、関わりを楽しんでいました。



柱立て5 若者支援に関わる団体との情報交換やネットワークづくり

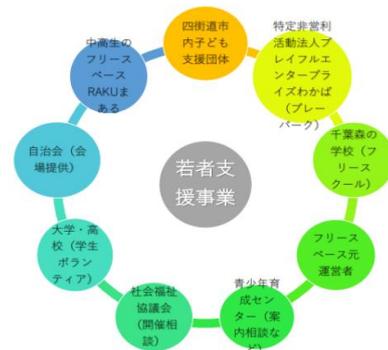
若者支援ネットワーク

9月に市内の中高生フリースペース、子ども食堂などのネットワークとして、子ども支援団体交流会へ参加。

コロナ禍でも、食事を提供できなくても、場があることが支援になることを共有。

2月には千葉のフリースクール、プレーパーク、フリースクールスタッフの皆さんと、

若者支援の情報交換や具体的な課題について意見意見交換を行い、



(資料) コロナ禍における四街道市内の居場所の開催状況

居場所名	実施団体・担当課	開催日	2020年										2021年			備考	
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
			緊急事態宣言										緊急事態宣言				
小中学校			休校	休校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
児童センター	四街道市社会福祉協議会	毎日(第4月休)	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×		
放課後子ども教室	四街道レクリエーション協会	第2・4(休)	×	×	×	○	×	○	○	○	○	×	×	×			
学習広場	四中地区社協	月・休	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×			
子ども食堂	四中地区社協	第2・4(休)第3(休)	×	×	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	一部クリスマス食品配布		
四街道あそびっこ基地	四街道あそびっこ基地	第2・4(休)	×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×	×	15-17時		
RAKUまある(中高生のフリースペース/千代田地区)	子どもサポートプロジェクト	第3(火)	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×			
中高生のフリースペースぶらっと	四街道プレーパークどんぐりの森	第1(土)・2,3,4,5(金)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	4,5月はオンライン活用		
若者支援野外の遊び場	四街道プレーパークどんぐりの森	第1・3(土)	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
プレーパーク	四街道プレーパークどんぐりの森	毎週月・金	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
青少年育成センターフリースペース	青少年育成センター	月・金	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×			

※令和3年3月四街道市みんなで地域づくりセンター調べ

新型コロナウイルス感染症に対する考えが2極化していること。
保護者は「外に出てOK」と「感染が怖いからひきこもる」に分かれていて、家において外に出られないママの声を聴く場の必要性を感じる。
また、動きを意識的に制限させられているが、子ども達も大人も我慢や辛さを感じるだけでなく、状況下で「できることを楽しむ!」ことも忘れないでいきたい。
大人の期待する言葉を上げてしまう子どもがいるので、子どもが意見を言える場の設定が大事⇒子どもの話す場が必要。
大人が「かわいそう」と思っても子どもは楽しんでいるかもしれない。
レッテルを張らず、思いを押し付けることなく、「子どもの声を聞こう!」
親として、または地域の居場所など様々な立場から子どもたちを見守る大人たち。
どんな声掛けができるのだろうか。子どもに伝えたい思いは何だろうか。運営に関わる居場所で出来ることって何だろう。思いは巡ります。
「辛さやしんどさを抱えている子どもたち、でもね、ずっとつらくなくていいんだよ。たくさん遊んで、楽しんでいいんだよ。楽しいときは思いっきり笑っていいんだよ。」

四街道市みんなで地域づくりセンター子どもサポートプロジェクトブログより抜粋

報告書の作成・報告会開催

3月24日(水)

やすらぎの家にて実施予定
地域自治会、社会福祉協議会、
行政担当課、市内子ども団体へ
案内します。



【2020年度事業実施概要まとめ】

柱立て1「野外の遊び場若者居場所事業」/17日開催 1,175人

野外の若者の居場所づくり 気軽に困りごとを持ち込める社会的居場所
場所 四街道市和良比どんぐりの森

日時 毎月隔週土曜日 10時～17時 24日/年

柱立て2「室内の居場所ユーススペース事業」/39日開催 204人

室内での相談・学習支援・コミュニケーションワーク

場所 四街道市和良比区集会所

日時 第1土曜日、第2,3,4,5金曜日 16時～20時

柱立て3「若者の社会体験プログラム事業」/20回 130人

場所 四街道市および市内各地/ベーゴマ大会、お誕生日会、HP作成等

日時 年6回 参加人数

柱立て4「スタッフ養成の研修や視察の開催」

若者の現状と対応・傾聴と配慮・ソーシャルスキルトレーニングの研修

場所 四街道市内および市外オンライン

日時(時期) 年6回程度

柱立て5「若者支援に関わる団体との情報交換やネットワークづくり」

こども支援団体交流会参加

中高生フリースペース情報交換会(2月26日)/4団体8人参加

柱立て6「報告書の作成・報告会開催」

3月末に報告会の開催、報告/3月24日予定

次年度に向けて

次年度に向けて これまで2年実施してきた若者支援の取り組みでは、
参加する若者が就労するという嬉しい報告もありました。

これらの経験を生かし、さらに見えてきた課題とニーズに対し
事業の継続に取り組みます。

- ①野外の居場所事業
- ②室内のフリースペースとオンライン活用
- ③若者企画
- ④外出自粛時でも取り組めるフリースペースホームページ作成と活用
- ⑤若者支援ネットワークの充実です。

いつでも開いている居場所の確保、オンラインの活用による参加機会の確保、
学童期から切れ目のない支援を継続してきた信頼できる大人スタッフと
市内外で中高生の居場所や支援団体とのネットワークにより
その仕組みを支えます。

生きているだけでOKな居場所をつくることで、
中高生や若者がまちに溶け込み、夢を持ち育ち、
支える側の大人も豊かになる醸成された社会を目指したいと考えます。

(NPO法人四街道プレーパークどんぐりの森 代表 古川美之)

行政施策へのアプローチ

2020年度第3次四街道市地域福祉計画にあたり、
団体メンバーは策定のための意見交換の場に参加し、
また団体代表は計画案策定委員として
審議会にも関わることができました。

若者支援として具体的な取り組みがほとんどない中、
地域福祉計画において居場所の必要性和若者の現状を伝え、
計画に反映させることができました。

今後具体的な政策検討の場で事業提案をしていきます。

～2020年を振り返って～

コロナウィルスがあって
例年通りの一年ではなかったけど
その分イベントの工夫のしがいがあり
面白さは変わらなかった。

例えば、
ベーゴマチャンピオンシップでは、
自分たちが主体となり
出場者表や呼びかけを行った。
他にも、モリンピックでは、
競技を考え実践することで
盛り上がる事ができた。
この経験は今年しかできないと思うから
とても貴重だった。

コロナの影響があまりにも大きかった。
たくさんの行事が中止になってしまい
残念だったが制限があっても
開催できたのは良かった。
2021年も今まで通りにはいかないと思うけど
たくさんのことに関わっていきたい。
2020=楽しかった～!

(中学2年/Y.T)



居場所っていいよね

毎週1回ぷらっとを開催していてその日を待ちわびている若者たちがいます。

その日の夜は予定を開けて来ている子がいます。

そしてその場所を必要としている若者たちがいます。

来ている子たちはその場所で何をするかはその時の気分次第。

ただただパソコンで動画を見たり、スマホを触っているだけだったり、楽器を弾いたり...

若者たちはいったい何を求めてきているのだろうか？

ただご飯を食べたいだけなのかなあとか...といろいろと考えた時もありました。

僕が感じたのはこの場所に何か目的を持って来ているというよりも、

この場所が自分にとって安心していられる空間であり、

安心できる人達を求めて会いに来ていると感じました。

なんとなく家に居づらい思春期真ただ中の子たちが

この場所で集まって楽しそうに話をしたりしています。

特にしゃべるわけでもなくスマホをずっと触っている子も

さりげなく隣に座ってくるときがあります。

もちろんお腹をすかせて

温かいご飯を楽しみにしている子がいます。

時にお腹を抱えて大笑いしたり、愚痴を聞いたり、

他愛もない話の中で思春期の悩みや

進路や学校のことなどについてはなしになったり。

ただ隣で話を聞いてあげるそれだけで

帰るころには表情は明るくなっていくことがあります。

ちょっとでも気持ちが楽になったらいいな、

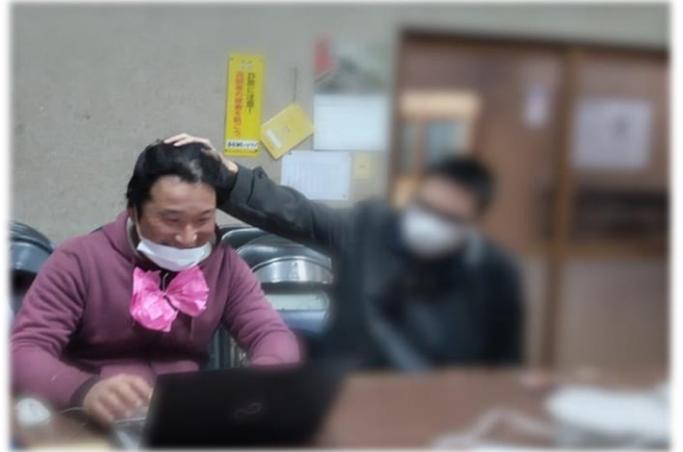
ここにいる時くらい楽しいなと思える瞬間が一つでもあったら素敵だなと思っています。

思いついたときに行ける場所、ふと人に会いたくなったときに行ける場所、

安心できる場所を待ちわびている若者たちがいる限り、

今まで通りこれからもかわらずにぷらっとを開けて待つておくことが必要だと思います。

(プレイワーカー 中島良介)



新年度を迎え社会人になった私は、

「忙しいから」、「疲れているから」、という理由をつけて、

どんぐりの森に行かなくなってしまうのではないかという不安を感じていました。

しかし、そんな小さなものは吹き飛ばしてしまうほどの大きな変化のあった一年でした。

コロナウイルスが流行り、緊急事態宣言が発令され、私は早々に在宅での勤務となり、

集中しづらい環境の中、

覚えなければならぬことが大量の仕事に取り組むことになり、非常に大変でした。

少し騒動も落ち着いた頃、久しぶりにどんぐりの森に行ったとき、

ワーカーと色んな話をしました。

帰る頃には、自分も頑張ろうという気持ちになっていました。

人と関わること、話すことは気力もいりますが、

それ以上にたくさんのものをもらえるのだなと実感しました。

そして私は、どんぐりの森に行ける限りは行くのだろうと思います。

いつかは四街道市を出ても、行きたくなったら行き、

どんぐりの森で大人と話をしたり、子どもたちと遊んだり、

ぷらっとでみんなとご飯を食べると思います。

(19オ/新社会人/K. I)





発行 NPO法人四街道プレーパークどんぐりの森

〒284-0044 千葉県四街道市和良比690

E-mail donchan@dongurinomori.net

Tel 090-6197-6735

Website <https://dongurinomori.net>

令和2年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

